



Trial development of the Cognitive Appraisal Scale for Infertility (CASI) (version1)

齋藤, 良子

(Degree)

博士 (保健学)

(Date of Degree)

2009-03-25

(Resource Type)

doctoral thesis

(Report Number)

甲4497

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/D1004497>

※ 当コンテンツは神戸大学の学術成果です。無断複製・不正使用等を禁じます。著作権法で認められている範囲内で、適切にご利用ください。



氏 名 齋藤 良子
博士の専攻分野の名称 博士（保健学）
学 位 記 番 号 博い第 4497 号
学位授与の要件 学位規則第 5 条第 1 項該当
学位授与の日付 平成 21 年 3 月 25 日

【 学位論文題目 】

Trial development of the Cognitive Appraisal Scale for Infertility (CASI) (version1) （不妊女性の
心理反応に関する認知的評価尺度開発の試み）

審 査 委 員

主 査 教 授 松尾 博哉
教 授 松田 宣子
教 授 橋本 健志

(別紙様式3)

論文内容の要旨

専攻領域 看護学

専攻分野 家族・在宅看護学

氏名 齋藤 良子

論文題目

Trial development of the Cognitive Appraisal Scale for Infertility (CASI) (version 1)

(不妊女性の心理反応に関する認知的評価尺度開発の試み)

論文内容の要旨

不妊は不妊症夫婦にとって最もストレスの高い人生経験であり、先行研究では不妊女性に共通する感情(驚き、否認、怒り、罪悪感、抑うつ等)を明らかにしている。また、精神的要因が免疫学的に影響を及ぼすとも言われている。例えば、NK細胞活性は妊娠初期において妊娠継続に重要な役割をもつが、習慣性流産患者に認められるNK活性高値が不妊症患者にも認められることが近年、明らかにされた。精神、神経、免疫、及び内分泌学との関連を考慮すると、不妊によるストレスが不妊女性の不妊状態をさらに悪化させる可能性があり、不妊に対する心理的反応を客観的に評価し、適切な精神心理的介入をすることが生殖医学に有益であると考えられる。

ストレスと生殖医学に関連する先行研究で主に用いられる測定用具(尺度)はSTAIやSDS、POMS等であるが、これらは不妊に特化していない。Infertility Reaction Scale (IRS)やFertility Problem Inventory (FPI)は不妊に特化した尺度として開発されたが、尺度の信頼性や妥当性の検証が不十分であり、また否定的な側面のみから構成されているといった限界点もあり、不妊に対する肯定的および否定的な心理反応を測定できる確立された尺度は存在していない。

そこで、本研究では不妊女性の心理反応に関する認知的評価尺度(CASI)を開発し、その信頼性および妥当性を検討することを目的とした。

日本の不妊専門クリニックを受診した女性患者223名を対象に、横断的調査及び初診から6ヶ月後の縦断的調査を実施した。主な測定用具は不妊の心理反応に関する自己記入式4段階リッカート・スケール質問紙(CASI: Cognitive Appraisal Scale for Infertility)、状態不安・特性不安尺度(STAI: the State-Trait Anxiety Inventory)、自己評価式抑うつ尺度(SDS: the Self-rating Depression Scale)を用いた。また、内的整合性

による信頼性はCronbach's α 係数、安定性による信頼性はテスト・再テスト法で信頼性係数、基準関連妥当性の併存妥当性はピアソン積率相関係数を用いた。構成概念妥当性については理論的評価を基に検証した。

因子分析の結果、8因子35項目を抽出した。第1因子は「不妊を受容することへの戸惑い(衝撃・怒り・抑うつ・不安)」、第2因子は「自尊感情の低下」、第3因子は「受容・順応・新しい価値観の確立(逆配点)」、第4因子は「失意・絶望」、第5因子は「性欲(libido)の喪失・夫婦関係の悪化」、第6因子は「自責」、第7因子は「否認」、第8因子は「秘密による孤立化」であった。

第1因子および第2因子の内的整合性(Cronbach's α)はそれぞれ0.88、0.82であり、第3因子から第8因子は0.69から0.58であった。第3因子から第8因子のCronbach's α が0.7未満であったことから、本研究では第1因子と第2因子のみを信頼性のある下位尺度であるとした。テスト・再テスト法による安定性(r)は第1因子0.87、第2因子は0.90であり、それぞれ高い信頼性が得られた。

第1因子とSTAI(特性・状態)及びSDSとの併存妥当性(r)は0.54、0.48、0.41であり、第2因子については0.43、0.29、0.41であった。いずれの尺度間においても中程度の相関が得られたことにより、本尺度が不安や抑うつのみではなく、不妊に対するより包括的な心理反応を測定していることが確認できた。また構成概念妥当性の検証においても、十分な妥当性が確認できた。

不妊女性の心理反応に関する認知的評価尺度(CASI)はまだ開発途上にあり、改善の余地はあるが、下位尺度得点を標準化するなど本尺度を改良することによって、臨床に活用できる可能性が十分にあると考える。

Key Words: Scale, infertility, infertile women, emotional responses to infertility, reliability, validity, anxiety, depression

指導教員氏名: 松尾 博哉 教授

(別紙1)

論文審査の結果の要旨

氏名	齋藤 良子		
論文題目	Trial development of the Cognitive Appraisal Scale for Infertility (CASI) (version 1) (不妊女性の心理反応に関する認知的評価尺度開発の試み) (外国語の場合は、その和訳を併記すること。)		
審査委員	区分	職名	氏名
	主査	教授	松尾 博哉
	副査	教授	松田 宣子
	副査	教授	橋本 健志
	副査		印
要 旨			
<p>不妊は不妊症夫婦にとって最もストレスの高い人生経験であり、そのことが精神、神経、免疫、及び内分泌学的要因を介して、不妊状態をさらに悪化させる可能性がある。従って、不妊に対する心理的反応を客観的に評価し、適切な精神心理的介入をすることが生殖医療に有益であると考えられる。しかし、現在のところ、不妊に特化し、その心理反応を測定できる信頼性や妥当性の検証がなされた尺度は存在しない。本研究では不妊女性の心理反応に関する認知的評価尺度(CASI)を開発し、その信頼性および妥当性を検討することを目的とした。不妊女性患者 223 名を対象に、開発した自己記入式 4 段階リッカート・スケール質問紙(CASI)、状態不安・特性不安尺度(STAI)、自己評価式抑うつ尺度(SDS)を用いて心理状態を調べた。因子分析の結果、8 因子 35 項目を抽出した。第 1 因子「不妊を受容することへの戸惑い」と第 2 因子「自尊感情の低下」で、内的整合性(Cronbach's α)と高い信頼性がみられた。STAI 及び SDS との併存妥当性でも、中程度の相関が得られ、本尺度が不安や抑うつのみではなく、不妊に対するより包括的な心理反応を測定していることが確認できた。不妊女性の心理反応に関する認知的評価尺度(CASI)は臨床に活用できる可能性が十分にあると考えられる。</p> <p>本研究は、不妊女性の心理反応を包括的に測定する尺度を開発したものであり、生殖医療に関わる重要な知見を得たものとして価値ある集積であると認める。よって、学位申請者の齋藤良子は、博士(保健学)の学位を得る資格があると認める。</p>			
掲載論文名・著者名・掲載(予定)誌名・巻(号)、頁、発行(予定)年を記入してください。 Trial development of the Cognitive Appraisal Scale for Infertility (CASI) (version 1)・Yoshiko Saitou and Hiroya Matsuo・Fertility and Sterility in press (IF:3.168)			